

佐伯一麦十年

—— 書誌・1984～1993 ——

二 瓶 浩 明

Nihei, Hiroaki.

本編は1984年から1993年12月までの、佐伯一麦^{きえいかずみ}の全著作物（印刷物）を対象とした。下限に格別の意味はない。当初は1996年6月までを収録範囲とし、まさに不断に更新されつつある「現在」に追いつかんとする野心をこめていたが、あまりに分量が多すぎて、制限を越えてしまったので縮小したものである。発表方法・形態については考え直さなければならぬようだ。

以下に簡単な凡例を示す。

第1部は「著書」（単行本・文庫本）とし、発行年月日、内容等の書誌的な事項について略記した。その記載方針については一目瞭然であるから、あえて説明するまでもないが、これらは現在でも容易に入手可能である。現段階においては、いたずらに詳細な記載をする必要もあるまいと判断して、基本的な事項を記すにとどめた。

第2部は「著作年表」であり、雑誌・新聞等の初出のあり方について記載した。新聞については、縮刷版があるものはそれに依っている。「年表」という性格から、再録されたものも掲載しているが、そのことはその旨明示した。著作の表題冒頭に付したアルファベットは、F=小説、E=随筆、T=対談・座談、I=談話の謂いであり、利用の便を考慮して、著作の性質をあらかじめ表示し、また、その概要を知るために、二種類の注記を施した。◇は、挿絵画家名や、項目名等、おもに著作頁内に傍記されたものへの注、※は、説明した方が良からうと判断されたことや、著作内容の十数字にまとめあげた解題等、編者の私注であることを示している。今後とも増え続けてゆく現代作家の著作をうまく分類するために付したものであって、無理やりデッチ上げた要約なるものを全面的に信じられても、私としては当惑するばかりであることも、ここに述べておこう。

あまり紙数もないので、くだくだしい凡例は控えるが、第1部、第2部とも、見ればそ

れが何を示しているのかがすぐ分かるように配列したつもりである。いたらない点があれば指摘して欲しい。

また、この作家が「佐伯一麦」になる以前の週刊誌記事や習作的小説については、本編の記載対象の外としたが、いずれ報告する機会があるであろう。彼の著作について言及した「参考文献目録」なるものも準備しているが、これも後で、ということにならざるを得ない。

岡本順氏、河北新報社の協力を仰いだ。とりわけ岡本氏には、あつくお礼を申し上げたい。

= 第1部 著書 (単行本・文庫本) =

<単行本>

○『雛の棲家』

1987年10月15日 発行

福武書店 刊 A5判

装幀 司 修

本文「雛の棲家」 P 7～P 69

「朝の一日」 P 71～P 91

「木を接ぐ」 P 93～P 159

「虫が喰う」 P 161～P 204

「転居記」 P 205～P 259

定価 1400円

○『ショート・サーキット』

1990年8月15日 発行

福武書店 刊 A5判

写真 築地 仁 装丁 菊地信義

本文「ショート・サーキット」 P 5～P 79

「プレーリー・ドッグの街」 P 81～P 145

「端午」 P 147～P 210

あとがき P 211

定価 1500円 (本体1456円)

○『一輪』

1991年2月15日 発行

福武書店 刊 A 5 判
装丁 司 修
本文「一輪」 P 5~P128
「ポートレート」 P129~P207
定価 1200円 (本体1165円)

○『ア・ルース・ボーイ』

1991年 6月20日 発行
新潮社 刊 A 5 判
装画 松本孝志
本文「ア・ルース・ボーイ」 P3~P181
定価 1100円 (本体1068円)

= 第 2 部 著作年表 =

1984年 (昭和59年)

F 木を接ぐ

(「海燕」1984年11月号、第3巻第11号、P75~107、1984・11・1発行、10月7日
発売、福武書店)

◇表題肩に 第三回「海燕」新入文学賞当選作

※当選作は二作。もう一作は小林恭二「電話男」

選考委員は以下の5名。大庭みな子、瀬戸内晴美、中村真一郎、古井由吉、
三浦哲郎

E 受賞のことば

(「海燕」1984年11月号、第3巻第11号、P69、1984・11・1発行、10月7日発売、
福武書店)

1985年 (昭和60年)

F 虫が喰う

(「海燕」1985年6月号、第4巻第6号、P57~76、1985・6・1発行、5月7日
発売、福武書店)

◇目次に 「海燕」新入文学賞受賞第一作

1986年（昭和61年）

F 転居記

（「海燕」1986年3月号、第5巻第3号、P66～92、1986・3・1発行、2月7日発売、福武書店）

F 朝の一日

（「新潮」1986年12月号、第83巻第12号、第983号、P79～89、1986・12・1発行、11月7日発売、新潮社）

1987年（昭和62年）

F 雛の棲家

（「海燕」1987年6月号、第6巻第6号、P18～48、1987・6・1発行、5月7日発売、福武書店）

◇目次に 九〇枚

1988年（昭和63年）

F 端午

（「海燕」1988年2月号、第7巻第2号、P96～119、1988・2・1発行、1月7日発売、福武書店）

◇目次に 七三枚

1989年（昭和64年・平成元年）

F プレーリー・ドッグの街

（「新潮」1989年6月号、第86巻第6号、第1013号、P113～137、1989・6・1発行、5月7日発売、新潮社）

E （読書アンケート '89印象に残った本）

（「新刊ニュース」1990年1月号、第41巻第1号、通巻474号、P37、1990・1・1発行、89年12月15日発売、東京出版販売株式会社）

※1989年に読んだ本の中から3冊、高井有一『夜の蟻』（筑摩書房）、雑誌「群像」7月号（講談社）、和田静子『命の残り 夫和田芳恵』（河出書房新社）を挙げ、若干のコメントを付したもの

1990年（平成2年）

F ショート・サーキット

（「海燕」1990年4月号、第9巻第4号、P46～74、1990・4・1発行、3月7日発売、福武書店）

◇目次に 九一枚

I 新人作家33人の現在 佐伯一麦

（「文学界」1990年5月号、第44巻第5号、P38～39、1990・5・1発行、4月7日発売、文藝春秋）

◇表題脇の惹句 何しても食っていける、というのは嘘だよ。

作家の目があるから身をやつしてられる

◇インタビューアー （A・Y）

F ポートレート

（「文芸」1990年秋季号、第29巻第3号、P216～241、1990・8・1発行、7月5日発売、河出書房新社）

F 一輪

（「海燕」1990年12月号、第9巻第12号、P58～100、1990・12・1発行、11月7日発売、福武書店）

◇目次に 一三五枚

E （読書アンケート '90印象に残った本）

（「新刊ニュース」1991年1月号、第42巻第1号、通巻486号、P35、1991・1・1発行、90年12月15日発売、東京出版販売株式会社）

※1990年に読んだ本の中から3冊、『八木義徳全集 全8巻』（福武書店）、清水邦夫『冬の少年』（講談社）、アラン・シリトー『渦をのがれて』（福武書店）を挙げ、若干のコメントを付したものを

1991年（平成3年）

F ア・ルース・ボーイ

（「新潮」1991年4月号、第88巻第4号、第1035号、P44～125、1991・4・1発行、3月7日発売、新潮社）

◇目次に 250枚

E 電気屋の道

（「東京新聞」1991年4月17日発行、夕刊第9面、中日新聞東京本社）

※茨城県最西部の町で迎える三度目の春と、先達和田芳恵とも共通する職人の道について

E “おれ”の内実を描く 藤村の孤蝕 アソシエイト-

(「すばる」1991年7月号、第13巻第7号、P176~177、1991・7・1発行、6月6日発売、集英社)

◇特集・文庫で読む青春文学

F 行人塚

(「新潮」1991年7月号、第88巻第7号、第1038号、P28~36、1991・7・1発行、6月7日発売、新潮社)

◇表題肩に 三島由紀夫賞受賞第一作

E 受賞の言葉

(「新潮」1991年7月号、第88巻第7号、第1038号、P6、1991・7・1発行、6月7日発売、新潮社)

※「ア・ルース・ボーイ」で、第四回三島由紀夫賞を受賞

選考委員は江藤淳、大江健三郎、筒井康隆、中上健次、宮本輝の5名

T 「私」の内実

聞き手・島弘之

(「新潮」1991年7月号、第88巻第7号、第1038号、P18~27、1991・7・1発行、6月7日発売、新潮社)

◇末尾に (一九九一・五・二〇)

I ぼく、おれ、私

(「波」1991年7月号、第25巻第7号、通巻第259号、P50~55、1991・7・1発行・発売、新潮社)

※三島由紀夫賞受賞に関する談話

T 対談 内面のノンフィクション

山田詠美と

(「海燕」1991年8月号、第10巻第8号、P146~174、1991・8・1発行、7月7日発売、福武書店)

◇末尾に (1991・6・13)

F 古河

(「海燕」1991年9月号、第10巻第9号、P96~106、1991・9・1発行、8月7日発売、福武書店)

E 麦主義者

(「海燕」1991年10月号、第10巻第10号、P158～159、1991・10・1発行、9月7日発売、福武書店)

※「冬主義者」上林暁に倣って、自らを「麦主義者」と宣言する

I インタビュー 現代文学と風土 佐伯一麦氏

(「河北新報」1991年9月17日発行、第12面、河北新報社)

◇惹句 「働いて現実性強める」下からの視点を守りたい

◇聞き手 赤間記者

E 詩 不屈の理念 安岡太郎『夕陽の河岸』

(「群像」1991年11月号、第46巻第11号、P250～251、1991・11・1発行、10月7日発売、講談社)

E 生命の樹を仰ぐ

(「新潮」1991年11月号、第88巻第11号、第1042号、P306～307、1991・11・1発行、10月7日発売、新潮社)

◇シリーズ名 本

※『野口富士男自選小説全集』(河出書房新社刊)の書評

E 解説

(新潮文庫 山田詠美『ひざまずいて足をお舐め』、P313～318、1991・11・25発行、新潮社)

◇末尾に (平成三年十月、作家)

F 嫌犬記

(「新潮」1992年1月号、第89巻第1号、第1044号、P296～304、1992・1・1発行、91年12月7日発売、新潮社)

F 百合根

(「群像」1992年1月号、第47巻第1号、P146～153、1992・1・1発行、91年12月7日発売、講談社)

E アンケート わたしのベスト3——一九九一年・文学の収穫

(「文学界」1992年1月号、第46巻第1号、P304、1992・1・1発行、91年12月7日発売、文藝春秋)

※3冊、安岡章太郎『夕陽の河岸』、辻章『この世のこと』、山田詠美『トラッシュ』の書名を挙げるのみ。

1992年（平成4年）

E 『ハックルベリー・フィンの冒険』

（『文学界』1992年2月号、第46巻第2号、P71、1992・2・1発行、1月7日発売、文藝春秋）

◇シリーズ名 読書ノート

※上掲書は マーク・トウェイン著 西田実訳 岩波文庫

E 解説にかえて——古井由吉の視点

（福武文庫 古井由吉『招魂としての表現』P333～338、1992年1月16日発行、福武書店）

E おだやかな中間色の追想

（『波』1992年2月号、第26巻第2号、通巻第266号、P64、1992・2・1発行・発売、新潮社）

◇シリーズ名 ブックプレート

※千刈あがた『ラスト・シーン』（河出書房新社）の書評

E 『労働と人生についての省察』

（『文学界』1992年3月号、第46巻第3号、P77、1992・3・1発行、2月7日発売、文藝春秋）

◇シリーズ名 読書ノート

※上掲書は シモーヌ・ヴェイユ著 黒木義典・田辺保訳 勁草書房刊

E 『妻喰い男——マナト・ファンヨンの断片』

（『文学界』1992年4月号、第46巻第4号、P133、1992・4・1発行、3月7日発売、文藝春秋）

◇シリーズ名 読書ノート

※上掲書は レスカー・ムシカシントン訳 井村文化事業社刊

E 『南小泉村』と『土』

（『海燕』1992年4月号、第11巻第4号、P12～15、1992・4・1発行、3月7日発売、福武書店）

※真山青果と長塚節の二作品について思うこと

T 内面のノンフィクション

山田詠美と

（山田詠美『内面のノンフィクション』P125～184、1992・4・15発行、福武書店）

※1991年8月号「海燕」所掲、同名対談の再録

- E 屋根の上の指南書——「アンテナ・ハンドブック」
（「波」1992年7月号、第26巻第7号、通巻第271号、P26～27、1992・7・1発行・
発売、新潮社）
◇特集 青春・本との出会い
- E 排尿失禁
（「群像」1992年9月号、第47巻第10号、P182～183、1992・9・1発行、8月7
日発売、講談社）
※四年ぶりに電気工事の仕事に復帰して、ビールに酔って昏倒、医者に原因不明の
「排尿失禁」なる診断を受けたことについて
- E 茶色の皮ジャン
（「新潮」1992年10月号、第89巻第10号、第1053号、P224、1992・10・1発行、9
月7日発売、新潮社）
◇追悼特集・中上健次 のうち
- T 黠 “俺を畏れよ、畏れさせよ” 中上健次をどのようにうけとめるか
島田雅彦・渡部直己と
（「海燕」1992年10月号、第11巻第10号、P134～157、1992・10・1発行、9月7
日発売、福武書店）
※中上健次追悼鼎談
◇末尾に（1992・8・22 福武書店）
- I 東北視野に創作活動へ 三島由紀夫賞受賞・仙台出身の佐伯さん
（「河北新報」1992年10月18日発行、第9面、河北新報社）
◇惹句 宮城県山元町に移住 文学一本に絞る 豊かな世界をありのままに
- F ある帰宅
（「群像」1993年1月号、第48巻第1号、P48～73、1993・1・1発行、92年12月
7日発売、講談社）
- E 父と子供がいる風景 新連載 自転車
（「あけぼの」1993年1月号、第38巻第1号、P30、1993・1・1発行、92年12月
10日発売、聖パウロ女子修道会）

1993年（平成5年）

- E 父と子供がいる風景 第2回 焚火
（「あけぼの」1993年2月号、第38巻第2号、P30、1993・2・1発行、1月10日

発売、聖パウロ女子修道会)

E 鏡の中の自分

(「新潮」1993年3月号、第90巻第3号、第1058号、P270、1993・3・1発行、2月7日発売、新潮社)

◇シリーズ名 本

※黒井千次『自画像との対話』(文藝春秋)の書評

I 先駆が送る熱いメッセージ やる気があれば壁は突破できる

(「河北新報」1993年2月8日発行、第4面、河北新報社)

※仙台一高出身者四人の 後輩へのメッセージ のうち

E 父と子供がいる風景 第3回 凧揚げ

(「あけぼの」1993年3月号、第38巻第3号、P30、1993・3・1発行、2月10日発売、聖パウロ女子修道会)

E ギットでも読め!

(「波」1993年3月号、第27巻第3号、通巻第279号、P12~13、1993・3・1発行・発売、新潮社)

※川村毅『ギッターズ』(新潮社)の書評

E 父と子供がいる風景 第4回 犬

(「あけぼの」1993年4月号、第38巻第4号、P30、1993・4・1発行、3月10日発売、聖パウロ女子修道会)

E 中国の建設現場と文学

(「波」1993年4月号、第27巻第4号、通巻第280号、P53~55、1993・4・1発行・発売、新潮社)

※92年秋に、訪中作家代表団のひとりとして旅行したときのこと

E 早春の記

(「文学界」1993年5月号、第47巻第5号、P12~13、1993・5・1発行、4月7日発売、文藝春秋)

※係累と別れて、ひとり仙台市内のアパートで暮らす春の日々のこと

E 父と子供がいる風景 第5回 机

(「あけぼの」1993年5月号、第38巻第5号、P30、1993・5・1発行、4月10日発売、聖パウロ女子修道会)

E 辛夷に会う

(「河北新報」1993年4月20日発行、第12面、河北新報社)

◇惹句 春の到来を実感

※春の訪れを知らせる辛夷(こぶし)の花を、仙台市野草園に見に行ったこと

E 父と子供いる風景 第6回 泣く子

(「あけぼの」1993年6月号、第38巻第6号、P30、1993・6・1発行、5月10日
発売、聖パウロ女子修道会)

E 蜘蛛の巣アンテナ 屋根の上から、はじめまして

(「河北新報」1993年5月13日発行、第14面、河北新報社)

◇惹句 見知らぬ世界に触手

※「蜘蛛の巣アンテナ」は、佐伯自身の命名による連載コラム名。隔週掲載

E 蜘蛛の巣アンテナ ライト・フィールド

(「河北新報」1993年5月27日発行、第16面、河北新報社)

◇惹句 不器用な人の持ち場

E 蜘蛛の巣アンテナ 街に里の風が吹く

(「河北新報」1993年6月10日発行、第12面、河北新報社)

◇惹句 心地よい“神保作品”

E 父と子供いる風景 第7回 鯉のぼり

(「あけぼの」1993年7月号、第38巻第7号、P30、1993・7・1発行、6月10日
発売、聖パウロ女子修道会)

E 蜘蛛の巣アンテナ 梅雨の愉しみ

(「河北新報」1993年6月24日発行、第15面、河北新報社)

◇惹句 切れ間に色と会う

E 電鍵を打つ文学

(「波」1993年7月号、第27巻第7号、通巻第283号、P72～73、1993・7・1発行・
発売、新潮社)

◇シリーズ名 ブックプレート

※丸山健二『見よ、月が後を追う』(文藝春秋)の書評

E 詩 安西篤子『黒鳥』新編刊

(「海燕」1993年8月号、第12巻第8号、P320、1993・8・1発行、7月7日発売、
福武書店)

T 戯絵 「私」という現象

日野啓三・三浦雅士と

(「群像」1993年8月号、第48巻第8号、P198～222、1993・8・1発行、7月7

日発売、講談社)

◇特集・変容する「私」のうち

◇表題下の写真脇に 一九九三年五月七日

E 蜘蛛の巣アンテナ ペンネームについて

(「河北新報」1993年7月8日発行、第12面、河北新報社)

◇惹句 ゴッホへの熱い共感

E 父と子供がいる風景 第8回 草野球

(「あけぼの」1993年8月号、第38巻第8号、P30、1993・8・1発行、7月10日
発売、聖パウロ女子修道会)

E 蜘蛛の巣アンテナ お先にどうぞ

(「河北新報」1993年7月22日発行、第15面、河北新報社)

◇惹句 マイペースで生きる

E 蜘蛛の巣アンテナ 夏の苧(こだま)

(「河北新報」1993年8月5日発行、第15面、河北新報社)

◇惹句 悲しげに鳴くカラス

E 父と子供がいる風景 第9回 川

(「あけぼの」1993年9月号、第38巻第9号、P30、1993・9・1発行、8月10日
発売、聖パウロ女子修道会)

E 広瀬川べりを歩く

(「朝日新聞」1993年8月13日発行、夕刊第3面、朝日新聞社)

※この夏、父とともに川べりを歩いたときのこと

E 蜘蛛の巣アンテナ 星空を仰ぐ

(「河北新報」1993年8月19日発行、第15面、河北新報社)

◇惹句 7つの流れ星を観測

E まぼろしの夏に拾う

(「日本経済新聞」1993年8月29日発行、第32面、日本経済新聞社)

※中上健次一周忌に思う、熊野と東北との関わり

E 蜘蛛の巣アンテナ 「泡鳴岩」を知りませんか

(「河北新報」1993年9月2日発行、第15面、河北新報社)

◇惹句 いとしや竜の口溪谷

E 詩 古井由吉『魂の日』誠誦

(「海燕」1993年10月号、第12巻第10号、P320、1993・10・1発行、9月7日発売、

福武書店)

- E 父と子供のいる風景 第1回 通信簿
(「あけぼの」1993年10月号、第38巻第10号、P 30、1993・10・1 発行、9月10日
発売、聖パウロ女子修道会)
- E 蜘蛛の巣アンテナ 家いきれい
(「河北新報」1993年9月16日発行、第11面、河北新報社)
◇惹句 脳髄に刻まれた世界
- E 蜘蛛の巣アンテナ 私の大学
(「河北新報」1993年9月30日発行、第12面、河北新報社)
◇惹句 「記者」生活の4年間
- F 渡良瀬 新載
(「海燕」1993年11月号、第12巻第11号、P 84～91、1993・11・1 発行、10月7日
発売、福武書店)
◇画：西方久
- E 父と子供のいる風景 第11回 流れ星
(「あけぼの」1993年11月号、第38巻第11号、P 30、1993・11・1 発行、10月10日
発売、聖パウロ女子修道会)
- E 蜘蛛の巣アンテナ 山形国際ドキュメンタリー映画祭(上)
(「河北新報」1993年10月14日発行、第15面、河北新報社)
◇惹句 夫婦について考える
- E 蜘蛛の巣アンテナ 山形国際ドキュメンタリー映画祭(下)
(「河北新報」1993年10月28日発行、第13面、河北新報社)
◇惹句 冷徹な視線には疑問
- F 渡良瀬 連載2
(「海燕」1993年12月号、第12巻第12号、P 226～234、1993・12・1 発行、11月7
日発売、福武書店)
◇画：西方久
- E 父と子供のいる風景 最終回 挨拶
(「あけぼの」1993年12月号、第38巻第12号、P 30、1993・12・1 発行、11月10日
発売、聖パウロ女子修道会)
- E 蜘蛛の巣アンテナ 公孫樹
(「河北新報」1993年11月11日発行、第14面、河北新報社)

◇惹句 思い出の一本の古木

E 蜘蛛の巣アンテナ あの夕陽

(「河北新報」1993年11月25日発行、第14面、河北新報社)

◇惹句 日野啓三さんのこと

F 木の一族

(「新潮」1994年1月号、第91巻第1号、第1068号、P 206～242、1994・1・1発行、93年12月7日発売、新潮社)

◇目次に 110枚

F 渡良瀬 漣

(「海燕」1994年1月号、第13巻第1号、P 218～225、1994・1・1発行、93年12月7日発売、福武書店)

◇画：西方久

E 落葉焚き

(「東京新聞」1993年12月7日発行、夕刊第9面、中日新聞東京本社)

※図書館のある公園で目にした落葉焚きの風景と、そこから紡ぎ出されてくる記憶のぬくもり

E 蜘蛛の巣アンテナ 缶詰記

(「河北新報」1993年12月9日発行、第12面、河北新報社)

◇頼りになるのは根気

E 少年講義 I 洞

(「あけぼの」1994年1月号、第39巻第1号、P 27、1994・1・1発行、93年12月10日発売、聖パウロ女子修道会)

E 蜘蛛の巣アンテナ 母校再訪

(「河北新報」1993年12月23日発行、第14面、河北新報社)

◇惹句 気取らず本音を語る